

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察防除情報第15号

ばれいしょ・ブロッコリー・いちご ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ）、オオタバコガの防除対策について

ヨトウムシ類のフェロモントラップの誘殺数が多い状況が続いています。オオタバコガはフェロモントラップの誘殺数は平年並～やや少ですが、ブロッコリー圃場での発生が多い傾向にあります。気温もしばらくはかなり高い見込みですので、今後、さらに被害の増加が予想されます。下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

(1) ばれいしょにおける10月前期の巡回調査(17筆)の結果、ヨトウムシ類の食害株率は1.3%(平年 5.2%)、発生圃場率は17.6%(同 35.0%)であった。

ハスモンヨトウの寄生は認めなかった(同 0.02頭)。

シロイチモジヨトウの株あたり虫数は0.02頭(同 0.02頭)であった。

(2) ブロッコリーにおける10月前期の巡回調査(10筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は2.7%(同 2.1%)、発生圃場率は50.0%(同 29.2%)であり、若・中齢主体であった。

シロイチモジヨトウの寄生株率は1.9%(同 1.8%)、発生圃場率は50.0%(同 19.0%)であった。

オオタバコガの寄生株率は2.4%(同 0.4%)、発生圃場率は40.0%(同 8.3%)であった。

(3) いちごにおける10月前期の巡回調査(26筆)の結果、ハスモンヨトウの食害株率は2.5%(同 6.0%)、発生圃場率は69.2%(60.6%)であった。

(4) ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市、南島原市)の誘殺数は、9月5半旬に大きなピークがあり平年より多かった。9月6半旬は一旦減少し、諫早市は10月2半旬以降平年並となり、南島原市はR5年よりかなり多く推移している(図1、2)。

(5) シロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市、雲仙市)の誘殺数は、9月5半旬に大きなピークがあり、その後減少したが諫早市は平年より多く推移している(図3、4)。

(6) オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は、9月以降平年並～やや少で推移している(図5)。

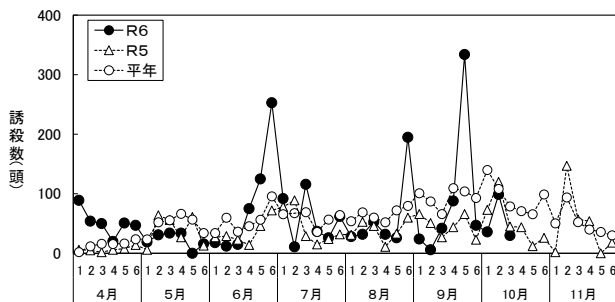


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町) (月・半旬)

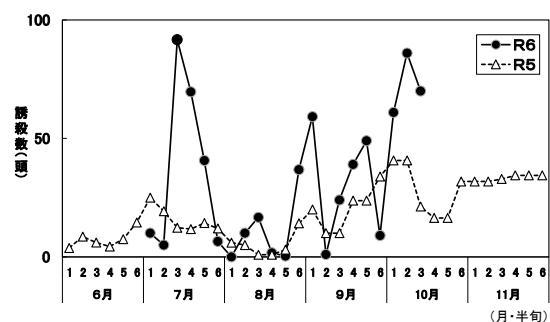


図2 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (南島原市南有馬町) (月・半旬)

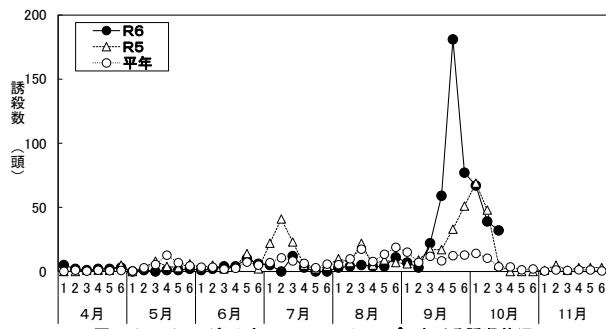


図3 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (月・半月)
(諫早市小船越町)

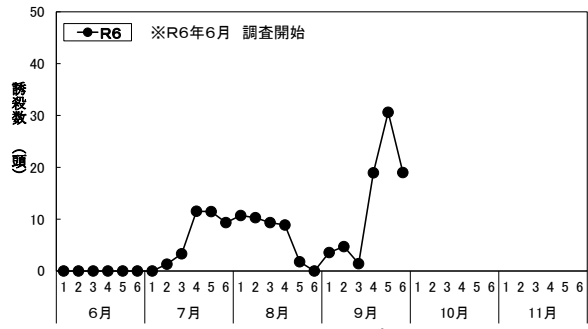


図4 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (月・半月)
(豊仙市吾妻町)

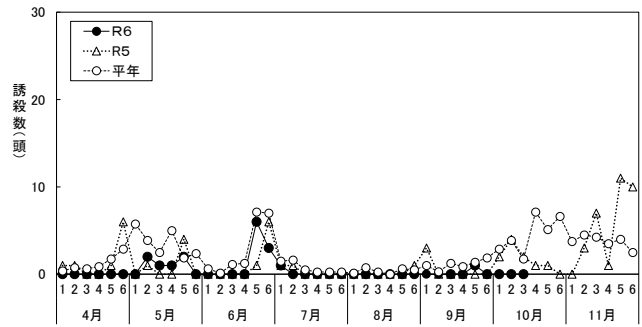


図5 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況 (月・半月)
(諫早市小船越町)

2. 防除対策

- (1) 圃場の見回りを徹底し早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- (2) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若・中齢幼虫期に防除を行う。なお、薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 今後定植するブロッコリーでは、育苗トレイへの灌注や粒剤の株元処理等を徹底し、生育初期に食害が発生しないよう努める。
- (4) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和6年長崎県病害虫防除基準 ばれいしょP78～79、ブロッコリーP242～245、いちごP218～221の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、ローテーション散布する。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

